

自動車事故

駒沢幹也氏は交通事故鑑定人である。1917年、東京生まれ。戦争中は飛行機を設計していた。戦後は大手保険会社の損害調査、鑑定業務に携わってきた。その経験を生かし、裁判に持ち込まれた複雑な交通事故の真相を、独特の緻密な手法で解明してきた。氏の事件簿から、いくつかの挿話を紹介する。

だらけの現場検証

ジャーナリスト 柳原三佳

「この車は、完全な警察側の検証ミスだね。正面衝突なんじゃない、バイクは車に追突されたんだ。ほら、両方の車をよく見てごらん、キズの高さも形もピッタリ合うだろ？」

駒沢幹也氏は、つぶれた車や現場の写真を机の上に広げながら、まるでその瞬間を見ていたかのような口調で語り始めた。

いわれてみれば、バイクには追突されたことを示すキズはたくさんあったが、正面衝突で受けたようなキズは見当たらない。駒沢氏は、さらにルーペを使いながら双方の車のキズを細かく拾い出し、バズルを組み合わせるように正確に照合していく。

「死人に口なし……。生き残った者の言い分だけを警察がうのみにしてしまった典型的な例だね。かわいそうに、バイクの青年は命を奪われ、おまけに加害者にされたわけだ。親は、やりきれない思いでいっぱいだろう。この件については、これから鑑定書を仕上げて裁判に訴える予定だ

から詳しいことはいいないが、実は、かなり悪質な事件なんだ。時効までに必ずひっくりかえしてやるつもりだ」

駒沢氏は現在七十五歳。一昨年で鑑定業務からは引退、後進の育成指導に専念するつもりだった。しかし、いまでもこのような交通事故トラブルに巻き込まれた遺族、弁護士、損保会社などからの鑑定依頼が後を絶たない。

「事故の瞬間を見ていなくて、キズを見れば、どういう衝突をしたのかはほとんど分かる。なぜかというところ、自動車事故はれっきとした物理運動だからだ。具体的にいうと、現場とブツ（車）の関係はタイヤ痕で、ブツとブツの関係は車のキズで読む。残されたキズを読み、解析するのが私の仕事なんだ」

現在、日本には、駒沢氏のように「交通事故鑑定人」という肩書を持つ活躍している人が数人いるが、彼らは警察官でも保険会社のアジャスター（損害調査員）でもない。

駒沢氏の友人でもある交通評論家の久留米進氏は、交通

作られる

節穴

事故鑑定という職業についてこう語る。

「海事鑑定士や火災鑑定士などは損害保険業界としての試験制度があるのですが、自動車事故の鑑定士に公の資格はありません。彼らには、知識と実績があるだけです。駒沢氏のように、裁判所が認める鑑定書を仕上げる人は、ごく少数しかいないのが現状ですが……」

交通事故裁判を数多くこなしてきたT弁護士は語る。

「裁判官を納得させるためには、やはり交通事故解析のプロの力が必要になります。私を知っている鑑定人は、駒沢氏も含めて数人。鑑定の方法や論法にはかなり個人差があります。いい加減な鑑定書を仕上げる、名ばかりの鑑定人もいます」

交通事故鑑定人という職業が必要とされている第一の理由

写真は衝突実験用の人形

由に、駒沢氏は警察の事故検証の甘さを指摘する。

「彼らは気づいていないかもしれないが、警察官の職能の中には知らぬうちに物理的な領域が広がってきているんです。少しでもいいから、交通事故を物理運動としてとらえ

警察の写真は「野次馬写真」

「写真はキズを読むことを目的として撮らなければならぬのに、警察のつくった調査を見ると、車から火が出てるところや派手にひっくり返っているような、いわば新聞ネタになるような写真が多すぎる。証拠写真さえきちんと撮っておけば、ほとんどの事故は簡単に説明できるはずなのに、野次馬写真の域にとどまっているものが多すぎる」

事故現場に残るスリップ痕ひとつをとっても、タイヤがロックしてできる「引きずり痕」、急ハンドルで横滑りしたときにできる「転がり痕」など、さまざまな種類がある。つながったひとつのスリ

て、その解析には何が必要なのかを学べば、事故の現場検証方式はまったく変わるし、事故後のトラブルはかなり減るはずなんだ」

現場の証拠写真の撮り方ひとつについても、駒沢氏の警察批判は手厳しい。

ツブ痕も、よく見ると衝突の瞬間やそのときの車の動きをしっかりと刻み込んでいるものだという。

四十五年間にわたる鑑定業務の中で、駒沢氏はさまざまな事故を扱ってきた。偽装事故、保険金詐欺、加害者と被害者が逆になってしまった冤罪事件……。彼はそのたびに、証拠が残した無言のメッセージを読み取り、真実を追求してきたのだ。

「ところで、知ってるかい？警察が出す事故証明ってのは、ある種の人間にとってはお守り代わりなんだ」

そういうながら、駒沢氏は厚い大判の茶封筒から、一冊

の鑑定書と証拠写真集を取り出した。

「これが追突された車の後部写真だ。この車には若い男が四人乗っていて、全員むち打ち症と診断された。分かるかい? どこが不自然なのか」

ニヤッと笑いながら、駒沢氏は私の顔をのぞき込む。ポコポコとナンバーのあたりが

へこんでいるのは分かるが、このキズのどこが不自然だところなのか。

事故は、一九八一年九月×日午後六時四十五分、兵庫県H市の県道で起こった。

若い男性四人が乗った軽自動車(赤信号で停止したところ、後ろからワンボックスカーが時速約四〇キロで追突し

た、とされる事件だ。

現場に駆けつけた警察官は、ワンボックスカーの運転手Gの、

「仕事のことを考えながらよそ見して走っていたために、信号待ちをしている相手の車に追突してしまいました」

という供述をもとに、Gの脇見による物損事故というこ

とでその場の処理をした。

後日談がある。

翌日、追突された軽自動車の四人は、それぞれ首の痛みや頭痛を訴えて病院へ。その結果、全員が「頸椎捻挫(むち打ち)及び打撲症」と診断され、四カ月間の入院と退院後一カ月間の通院生活を送ったのだった。

四人はまず、Gがワンボックスカーに掛けていた対人賠

償保険から合計千三百万円の保険金を受け取り、さらに、

個人で掛けていた生命保険や傷害保険からも、入院通院日数などに応じて、ひとり数百万という保険金を受け取った。それにとどまらず、自分たちが乗っていた軽自動車の任意保険から搭乗者傷害保険を受け取るうとして、その支払いを保険会社に強要してき

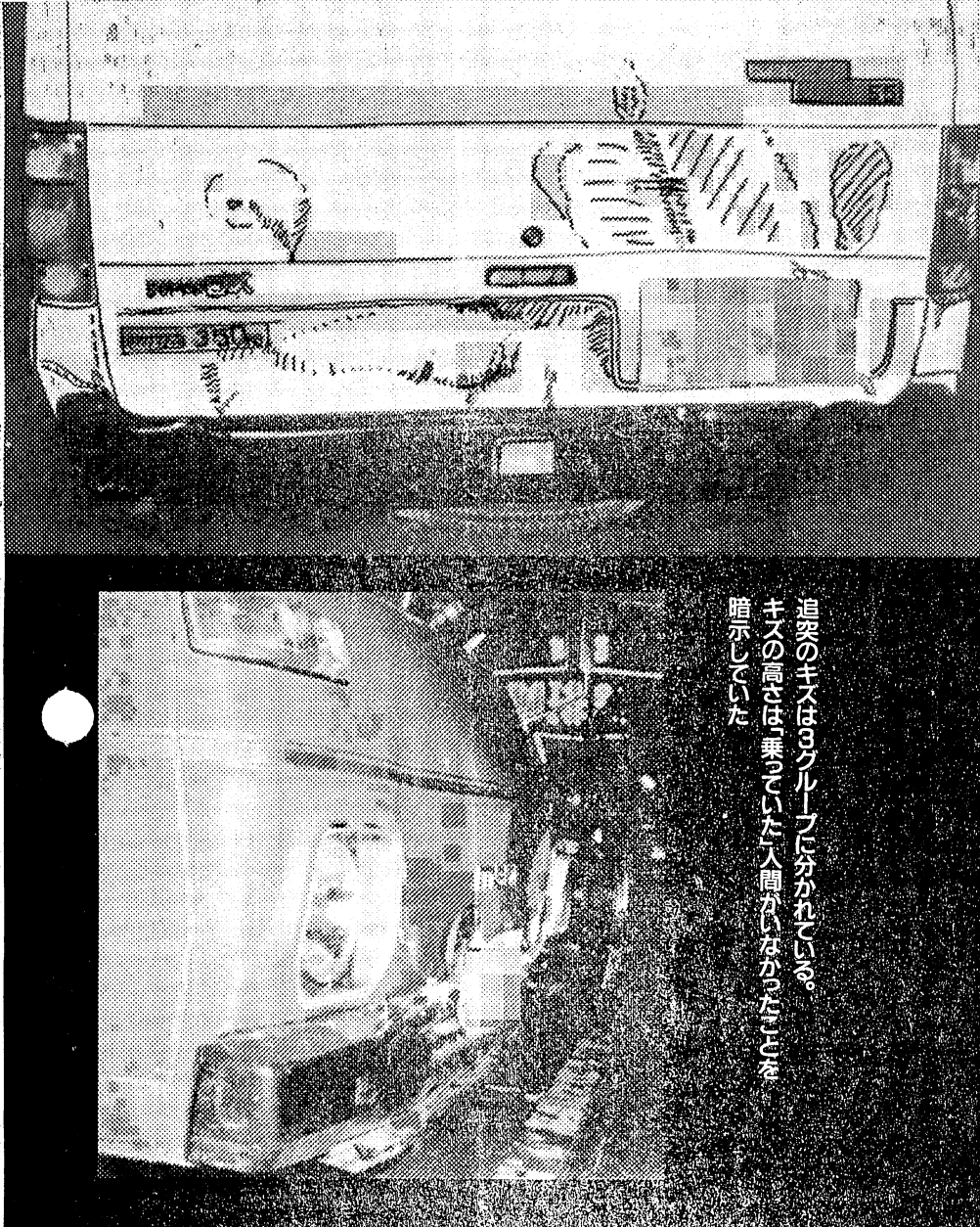
「被害者」は車の外にいた?

駒沢氏に鑑定依頼が来たのは、この時点のことだったという。

引き伸ばされた事故車の写真(トレースしながら、駒沢氏は解説を始めた。

「よく見てごらん。軽自動車の後ろには、大きく分けて三つの同質のキズのグループがある。これを見ただけで、少なくとも三回はぶつけられていることが分かる。ただし、一〇キロ程度の低速でね。止まっている車が四〇キロのスピードでぶつけられたら、こん

追突のキズは3グループに分かれている。
キズの高さは「乗っていた人間がいなかったことを暗示していた」



なものじゃすまないよ。それに、キズの高さから見ると、

軽自動車の中にはだれも乗っていないかった可能性が高い」

鑑定書の中では、三十センチにわたって事故車の合口の解析(どういう状態でこのキズができたのかという検証)や物理的な計算が一つひとつ行われ、結論に導かれていた。

「そう、これは最初から保険金目的の偽装事故だったというわけだ。つまり、サイドブレーキを引いて軽自動車を止め、その後から二、三回ワ

ンボックスカーにぶつけても
らった。これは後でわかった
ことだが、軽自動車を運転し
ていたKは暴力団組員の長男
で、追突したワンボックスの
Gとは仲間だったとされている。
それにしても、あの幼稚
なキズを見て、当事者の証言
どおり一回だけの追突だと判
断する警察や保険会社は、情
けないの一言だね」

その後、
「これは二台が共謀した偽装
事故だ」
と断定した駒沢氏の鑑定書
を弁護士から突きつけられた
Kは、
「変だ、変だ、」
といながらも、強い反論
をピタリとやめ、早々に搭乗

者保険の支払い請求を取り下
げた。
そして、まもなくワンボッ
クスの運転手Gが行方不明に
なったのに続いて、Kら四人
も姿をくらませた。
すでに支払いをすませてし
まった各保険会社は、払い戻
しの訴訟も起こせぬまま時効
を迎えたという。

駒沢氏は語る。
「本来、交通事故は不注意や
過失が重なって偶然に起きる
不幸な災害なんだ。しかし、
なかにはこのような手口の保
険金目当ての偽装事故も珍し
くはなくなってきた。こうい
うヤツらのために、善意の保
険加入者たちが高額な保険料
を払わされているのかと思う

と、腹が立ってくるよね」
この種の偽装事故では、あ
らかじめキズをつくっておい
てから二台連れ立って町中へ
出かけ、そこで改めて、危険
のない程度にコッソリとおつか
るケースが多いという。「証
人」をつくるために「見てく
れ衝突」を行うわけである。

先に町中で軽い衝突をしてか
ら、別途「保険屋に見せるキ
ズ」をつくることもあるとい
う。
「だから、警察は事故証明を
出す前に、保険会社は保険金
を払う前に、もう少し偽装事
故を見抜く力を持つてほしい
と思うんだ」

は警察の検証技術の欠落に起
因しているともいえます。軽
い物損事故だと、警察は簡単
にしか検証をしません。最近
はそれを逆手にとっての犯罪
が増えていることも事実で
す。損保会社で再調査しよう
というときには現場が残って
いませんから、犯罪を見抜く
のはなかなか難しい。でも、
いまの警察が忙しすぎることも
事実、一概に彼らを責める
気にはなれません」
という声がある。

それでも保険金は盗まれた

交通事故の検証について、
どのような教育カリキュラム
が組まれているのかを警察庁
にたずねたが、
「刑事訴訟法にのっとってお
ります」
というあっさりした答えが

得られただけだった。
駒沢氏のこのような指摘に
対して、損保会社の損害調査
担当者たちの間には、
「大きな声ではいえませんが
が、現実には必要な支払いがあ
ることは認めます。その一部

理由はどうあれ、この偽装
事故を仕組んだ人間たちは、
少なくとも合計三千万円以上
の保険金を、まんまとせしめ
たのである。

「変だ、変だ、」
といながらも、強い反論
をピタリとやめ、早々に搭乗

者保険の支払い請求を取り下
げた。
そして、まもなくワンボッ
クスの運転手Gが行方不明に
なったのに続いて、Kら四人
も姿をくらませた。
すでに支払いをすませてし
まった各保険会社は、払い戻
しの訴訟も起こせぬまま時効
を迎えたという。

駒沢氏は語る。
「本来、交通事故は不注意や
過失が重なって偶然に起きる
不幸な災害なんだ。しかし、
なかにはこのような手口の保
険金目当ての偽装事故も珍し
くはなくなってきた。こうい
うヤツらのために、善意の保
険加入者たちが高額な保険料
を払わされているのかと思う

は警察の検証技術の欠落に起
因しているともいえます。軽
い物損事故だと、警察は簡単
にしか検証をしません。最近
はそれを逆手にとっての犯罪
が増えていることも事実で
す。損保会社で再調査しよう
というときには現場が残って
いませんから、犯罪を見抜く
のはなかなか難しい。でも、
いまの警察が忙しすぎることも
事実、一概に彼らを責める
気にはなれません」
という声がある。

理由はどうあれ、この偽装
事故を仕組んだ人間たちは、
少なくとも合計三千万円以上
の保険金を、まんまとせしめ
たのである。

(つづく)

今、いちばん刺激的な経済情報誌

月刊 経営塾

■8月号

580円



イラスト 辰巳四郎

表紙の顔
斎藤裕・新日本製鉄会長

「政治にタカを
はつもの」
貧乏人は政治家になるな
三義重工業会長・飯田庸太郎
経済同友会代表幹事・速水 優

「これからはカネも
出さず口も出さず」
三義重工業会長・飯田庸太郎
経済同友会代表幹事・速水 優

「政治にタカを
はつもの」
貧乏人は政治家になるな
三義重工業会長・飯田庸太郎
経済同友会代表幹事・速水 優

「政治にタカを
はつもの」
貧乏人は政治家になるな
三義重工業会長・飯田庸太郎
経済同友会代表幹事・速水 優

西武・堤兄弟
和解説の中真実
針木康雄

「経済連会長に立候補?」
「冗談でしょう」とトヨタ会長
「横濱は本気で九月に大騒動」
河上和雄

●定期購読のお申し込み、お問い合わせは下記まで。
株式会社経営塾 〒100 東京都千代田区永田町2-17-3
☎ 03-3591-6521(代表) ☎ 03-3591-6599